地歴公民(世界史)

名古屋大学　文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期）　1 / 2

＜全体分析＞

試験時間　90　分

解答形式

大問単位では、記述式・選択式と短文論述を併用する問題が 3 題、長文論述が 1 題で例年と同じ。問題Ⅰ～Ⅲは語句で解答する記述式と短文論述、問題Ⅳは 450 字の長文論述である。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

問題Ⅳの長文論述は、例年の 350 字から 450 字と大幅に増加した。また、今年は指定語句を「すべてを用いる」形式にもどった。
出題分野では、地域別では例年通り、欧米地域とアジア地域がともに出題されたが、今年は中国史から 2 題出題された。時代別では、大問 4 つのうち、近現代史から 3 題出題され、戦後史からの出題も 3 年連続となった。
設問数では、増加した昨年と同様に分量的に今年も多くなっているが、長文論述の字数増加を考えても、90 分の制限時間で解答するのは可能である。

その他トピックス

問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはすべて文献資料・史料を用いた出題で、近年の傾向である史料・文献を読み取らせる設問が 2 問出題された。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述式・短文論述	「華夷の別」	岩波新書から引用した文を使った問題。引用文に空欄が設けられているので、正確に引用文どおりの内容を答えるのは難しい。また、問 7 は史料を読み取り、自分で考察した内容を答える短文論述問題であった。	やや難
Ⅱ	記述式･選択･短文論述	ヨーロッパ・アフリカの近代史	5 つの史料とその題名などを結びつける記号解答と、それらの時代配列、各史料に関する記述式･短文論述で構成されており、設問の出題レベルは、標準的である。	標準
Ⅲ	記述式･短文論述	第二次世界大戦後の日中関係	1972 年の日中共同声明に関する資料を用いた問題。設問は関連するリード文の空欄補充が大半で、問 10 は、資料を読み取り、本文と注を用いて答える短文論述問題で、やや答えにくいものであった。	やや難
Ⅳ	長文論述(450 字)	戦間期の国際秩序	字数が 350 字から 450 字と大幅に増えたが、頻出するテーマなので、教科書を丁寧に学習していれば対応できる。	標準

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

地歴公民(世界史)

名古屋大学　文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期）　２／２

＜学習対策＞

●出題分野は、大問では欧米地域・アジア地域が出題され、東西交流なども扱われている。出題頻度が高い中国史はとくに丁寧に学習し、ヨーロッパ史・インド史・東南アジア史・アメリカ合衆国史・東西交流史などにも対応できるようにしておきたい。また、戦後史もよく出題されるので、教科書の内容を最後まで学習することが重要である。
●難易度としては、一部に難しい設問が出題されることがあるが、全体には、基本的事項を総合的に捉える力が試されている。これは史料・文献を用いた問題でも同様なので、平易な設問を絶対に落とさない確実な学習が必要である。
●問題Ⅳの長文論述問題は、標準的レベルのものが多いが、歴史的事象の背景・構造やその因果関係などを問うテーマが多く、普段から世界史を大きな視点からとらえる学習をしていく姿勢が大切である。
●過去問をよく研究し、頻出するテーマの設問には短文論述で答えられる程度の学力を身につけたい。

© 河合塾　2023 年